

看護部だより ひまわり



2013年 5月
発行責任者：小牧加代子

Vol. 24

看護部スローガン

信頼され感動を分かち合える看護

“自立を支えるケア”

看護部長 緒方くみ子

新緑が眩しい季節になりました。

2013年新年度になり、4月には開院20周年式典を無事終えることができました。開院の時から積み重ねられた歴史を大切に、新たな気持ちで取り組んで行きましょう。

先ずは、7月の病院機能評価受審を控え毎日様々な取り組みで心身共に大変かと思いますがこのような時こそお互いを支え合いながら乗り切って行きましょう。批判や不満からは何も生まれないのでお互い意見を伝え、それぞれの力が重なって行くように努めましょう。目的は“医療の質の向上”に尽きます。

目の前の患者さんは、それぞれ人生の大きな試練の場におられ、病気や障害を引受けてこれからの人生の物語を書き換えて行かれます。回復される人もそうでない人も障害が残る人も自律できる力を持っておられます。看護師としてその力を引き出す支援ができることそれが大切なケアだと思います。その為には患者さんにより添い同じ方向を見ているか、一人一人の生き方を支えることができているかが問われます。そしてケアしながらまた自身もケアされていることを知ることが大切です。患者さんに「あなたで良かった」「この病院で良かった」と思ってもらえるよう努めましょう。

昨年はWLBに取り組み、夜勤手当等少しづつ改善できました。これからも更に、働きやすい職場を目指したいと思います。毎日皆さんに支えられて看護部があります。今年度もよろしくお願い致します。

副看護部長就任のご挨拶

副看護部長 長井砂都美



副看護部長として、4月1日辞令をいただきました。

平成11年に当院に入職し14年経ちました。看護師経験の半分を当院で過ごした事になります。この間いろいろな経験をさせていただきました。

3階西病棟での小児科経験。3階東病棟での主任、師長昇格。そして、結婚、出産。復帰後の外来での勤務。電子カルテ導入時には、看護部のコアメンバーとして各部署の担当者と手探り状態の午前中様になりながら、予定より1か月延長での運用開始。回復リハビリ病棟では、急性期病棟ではなかなか見ることができない、患者さんの回復過程をまざまざとみることができました。そして、地域医療連携室勤務では、院内はもとより地域、各関係機関との連携の重要性を感じています。「看護」するためには、「看護師」だけで頑張るのではなく、チームで関わるからこそが大事なのだと感じ、今後みなさんの力に少しでもなれるように、「ツナグンジャー」のポリシーをいつまでも持ちながら、頑張っていきたいと考えています。よろしくお願い致します。

業務委員会

看護部業務委員会は、業務検討部会・基準手順部会・情報管理部会・介護福祉士会から成り立っています。受け持ち看護師制の充実・基本手順の順守・マニュアルの活用・看護が見える記録・参画型看護の実践を土台に、「患者・家族・チーム医療メンバーに見える看護の提供」を大きな柱として活動していきます。これらを行う事で、看護部目標「信頼され感動を分かち合える看護」の提供に繋がります。看護業務に関する事は、基本的な事を確実に実施する事で、どのスタッフも同じ手順で看護介入することができる事で看護の見える化（可視化）に繋がるのではないかと考えています。

また、介護福祉士会を平成24年8月に発足、現在8名の介護福祉士が勤務しています。少しずつ専門性を発揮できる体制と教育に取り掛かったところです。今後の活躍を見て下さい。

教育委員会

教育テーマ

「自ら学び、互いに成長する力を育てる」

ラダー別の研修内容に加えて統一テーマとして、「フィジカルアセスメント」研修、「医療安全と感染管理」の観点からみたコラボ研修を計画、キャリアでは6割を占める看護職員に「BSC」研修で自部署の分析を行い管理的視点を学ぶ、自身のキャリアアップ計画は自主性を重視します。また一部のラダー研修への介護福祉士の参加、専門研修の「緩和ケア」「HCUコース・フィジカルアセスメント」は2年間コース、外部講師による「人材育成プログラム研修」を実施し、コアメンバーの育成を目指します。これらは公開講座とし、ラダーのレベル間を超えた研修参加など、学ぶことでお互いを刺激し合い、成長へつながっていく支援をしていきます。

平成25年度 各部署の目標

外来

「見る・見る・満ちる」

今年度は、「外来看護師として患者さんを看護するためには何が必要か？」と考えた結果、この目標に決めました。

看るとは？：看護する（自分達が提供した看護を記録として残す）

見るとは？：患者さんを見る（観察する）

患者さんを見る目を養う（専門的知識の習得）

満ちるとは？：患者さんと職員的笑顔が満ちる外来

（接遇向上、フィッシュを取り入れた職場環境の改善）

以上の事から、小集団を記録チーム・学習チーム・接遇チームの3チームに編成し活動を行う事としました。前年度も取り組んだ内容もありますが、今年度は特に質の向上につなげる事を目標にチーム編成を行いました。

「責任と思いやりの心を持ち、患者・家族のための看護サービスを提供する」

25年度の目標を決めるにあたり、専門的知識や技術と思いやりの心の両方を兼ね備えた手術室看護師を目指そうという気持ちで意見を出し合っていました。小集団活動も患者・家族看護を中心に積極的に一丸となって頑張ります。

- 1 R：患者・家族により添う看護
- 2 R：患者・家族を取り巻く環境の改善
- 3 R：スキルアップと感染対策を目的としたドアの開閉回数が減少する

手術室

「責任と自覚をもった看護の実践～看護が見える記録を目指して～」

看護実践・看護指示・看護計画のつながりができ、看護目標に向かってのケアが実践できるよう記録チームが中心になり取り組んでいきます。

【Aチーム】

患者目標に沿った看護の実践

短期・長期目標の立案から意識的な行動へつなげていく

【Bチーム】

入院時より退院を見据えた看護が提供できる

看護計画をもとに患者に適した退院指導を実施する

そのために看護計画を適宜見直しチームでの関与を促す

◎その他の活動（小集団）

【5Sチーム】

5Sに対する理解を深め、すすんで整理整頓を行える

転倒・転落予防チーム：転倒・転落の意識の向上と対策を行い事故件数を減少できる

【化学療法チーム】

グレード表を使った有害事象の把握と記録

化学療法に対する疑問を解決し退院指導に役立てる

【救急チーム】

救急シミュレーションを実施し病棟全体のスキルアップにつなげる

3階東病棟

「患者様・ご家族、一人ひとりと向きあい、「やさしい」看護を提供します」

患者・家族一人ひとりと向き合うことで、個性に対応した患者さん自身が選択できる看護の提供を行うことと、看護の本質である、「やさしさ」を持ち、自分の家族や大切な人に接するような看護をしたいという思いを込めています。今年度、新たにエンパワーメントに目を向けた看護実践にも取り組んでいこうと考えています。

3階西病棟

「その人らしい生き方と家族の想いを支える看護を提供する」

入院前の生活を可能な範囲で組み入れられるよう支援していきたいというスタッフの想いを大切に、入院患者さんの良き支援者・援助者として取り組んでいきたいと考えています。入院前の患者情報を的確に把握し、患者・家族の意向を踏まえながら、問題点の抽出、看護計画立案・実践という一連の看護過程を展開していきます。

【チーム目標】

Aチーム

患者・家族の声を反映させた
看護計画の立案と実践

Bチーム

看護プロフィールから看護計画立案と
実践

【小集団活動】

- ①記録チーム ②カンファレンスチーム
- ③学習チーム ④5Sチーム

4階東病棟

「受け持ち看護師として責任ある行動をとる」

昨年と同様の目標ではありますが、今年度はさらに具体的にするためにサブテーマとして ①多職種と関わり患者・家族とゴールを決める ②専門的知識を深める としました。受け持ち看護師制は定着していますが専門的知識のさらなる向上と看護師の質を高めること、病棟の目標を達成する為に小集団活動は学習、看護計画、SST、褥瘡、PNS・WLBの活動を行っていきます。

4階西病棟

【小集団活動目標】

- ①学習『専門的知識を高める』
- ②看護計画『カンファレンスの定着・多職種との連携を
参画型看護に取り入れる』
- ③SST『摂食機能療法・口腔ケアの手技統一・口腔ケア実施が3回/日』
- ④褥瘡『褥瘡に対しての知識の向上・予防的対応で褥瘡発生を防ぐ』
- ⑤PNS・WLB『PNSの理解と実践定着・WLBを意識し業務改善を行う』

回復リハビリ 病棟

「チーム力を集結し、患者・家族の思いを達成させよう!!」

パートナーシップナーシングシステム (PNS) の導入と、違いを活かした退院支援の実践
質の高い看護・看護サービスの提供

平成25年4月1日より固定チームナーシングを廃止、これまでの2チーム制から1チームへ変更しPNSを導入しました。統一した手順での看護介入実践・受け持ち看護師制の充実・参画型看護の充実・予測性をもった退院支援・医療チーム間のマネジメント力の向上を目的として取り組んでいます。今年度PNS定着に向け小集団活動も実践していきます。

新人看護職員紹介

今年の桜は例年より早く開花し、新人看護師3名と新卒介護福祉士1名が入职した4月1日はすでに桜は散り始めていましたが、新しい門出を祝福するにふさわしい新緑の若葉が茂る木の下で、まぶしいくらい笑顔で決意を新たにした4人です。大きく成長していくように、みんなで支え見守っていききたいですね。

濱崎大輔（看護師）

新しい環境の中で緊張していますが、スタッフの方々が気さくに声を掛けてくださりホッとしています。受け持ったことのない疾患の患者様、見たことの無い医療機器・検査など多くあり、不安や怖さを感じている毎日です。それでも先輩方が1つ1つ丁寧に指導をしてくださっています。苦手意識を持たず、まずは興味を持って勉強し、何故そうなるんだろうかという疑問を常に持ちながら前に進んで行こうと思います。少し耳が悪く、聞き返すことがありご迷惑をお掛けしますが、宜しくお願いします。

岩崎遥（看護師）

4月より新人看護師として働かせていただいています。就職して1ヵ月が経ち、少しずつ病院にも慣れていったような気がします。最近の楽しみは学生の時には行けなかった色々な場所に友達と行く事です。おいしい食べ物を探しに・・・です。（笑）社会人を楽しみながら仕事も頑張っていきたいと思います。患者さんの為に勉強も看護技術も身につけられるように努力していきたいと思います。よろしくお願いします。

矢野文香（看護師）

新人看護師として働き始めて、1ヵ月が経ちました。学生としてこの病院で働いていましたが、各病棟では1日の行動スケジュールも違い、慣れない事が多くあります。また看護師として働き始めて責任が大きくなるため、改めて学習がすごく大切だと感じています。検査など見学をさせていただき、介助につく先輩看護師の動きを見ることで、多くの事を学ばせて頂いています。これから多くの事を学習していきたいので、ご指導よろしくお願いします。



宇都琴実（介護福祉士）

4月から4階西病棟で勤務させて頂くことになりました。学生の頃は、サックスを吹いていた経験があり、音楽を聴くことが好きです。休みの日は温泉に行くことが多く、幼い頃からよく出掛けていました。祖母の影響で病院で働く仕事に興味を持ちました。今は緊張でいっぱいですが、早く仕事に慣れ、明るく頑張っていこうと思います。ご指導よろしくお願いします。

新人オリエンテーション

H25年度新人オリエンテーション・研修（4/1～4/5, 4/11, 4/25など）が始まりました。

現在、介護福祉士・看護助手の業務拡大を目指した活動が始まっており、今年から新人看護師オリエンテーションに介護福祉士もスケジュール内容により参加する企画としました。

看護部の基本理念や考え方、看護師・社会人としての自覚と責任、医療安全・感染管理、災害時対応、個人情報管理などや基本的看護技術の座学・デモンストレーション・実技を通して再確認したり、はじめて聞く・知る・経験することなど多岐にわたる内容に、一生懸命に学ぶ姿勢がありました。また、各部署のプリセプターの講師陣も早くからオリエンテーションの準備に取り掛かかり、新人にわかりやすく説明し理解してもらうためにはどうしたらいいか、当日に備えて万全を期して臨んでいました。プリセプター・エルダーさん達の功を労いたいです。今年も各ローテーション研修先での暖かいご指導をよろしくお願いします。



院内研修報告

看護計画書発表会

3/28 ホップ研修

9名の受講生が、1年間看護研究についての基礎講義を受けたのち、難しい思いながらもそれぞれが看護研究計画書の作成に前向きに取り組んできた成果を発表しました。

身近な疑問から看護研究のテーマがあげられたものもあり、どれも研究結果が楽しみです。発表後、たくさんの質問や意見・アドバイスがあり、さらに研究計画書が充実した良いものになっていくと思います。

25年度は、研究計画書に沿って一年間研究に取り組んでいきます。看護研究結果でよい成果がでることを期待します。また、研究に対して、スタッフ全員が興味を持ち、協力・支援をお願いしたいと思います。（有馬）

3月1日～2日に横浜で開催された「日本環境感染学会総会」へ参加しました。そもそも「環境感染」という言葉は、馴染みの少ない言葉ですが、病院内だけでなく広い社会環境における感染対策活動を意味しています。総会では毎年多く講演、一般演題の発表がされますが、とにかく人が多く目的の会場へ辿り着くのに一苦労します。初日は会場へ移動途中で北里の同期生と再会し大はしゃぎ、慌てて会場へ行くとあまりにも人が多く会場に入れず、そして病院からの感染症発生の連絡とハプニング続き、参加2日目は初日とは打って変わりとても順調でした。私にとって多職種の医療者が協力し、どの様に現場でチーム医療を展開していくのかが関心の高いところでしたが、施設の規模や事情も様々、自施設での現状に合わせて取り組んでいくしかない、とにかく前へ進むしかないことを悟りました。今回学んだ知識や他施設での取り組みを参考にし、院内の感染対策活動を充実させて行きたいと思います。来年の総会ではICTでの取り組みを発表できたらと考えています。



ミニナラティブ

4階東病棟 佐藤祐也

今年2月に入職し4東病棟に配属となり、肺がんの患者（終末期）を受け持った時のことです。私の中で終末期患者といえば、死を覚悟し人生の最期をより良く過ごしていく、というイメージを持っていました。

患者は、延命処置は希望しないと「遺書」に記しており、家族も承知されていました。しかし、患者の夫は、妻の命を救いたいという強い想いがありました。患者自身の想いを尊重したい気持ちと、残される家族の想いは相反するもので、私自身がどのように接していいのか分かりませんでした。主治医とのインフォームドコンセントの場を設けたり、日々の看護の中で家族の想いの表出の場を設けたり、他部門との連携を図りながら家族にとってよりよい医療の提供が出来るように考え行動をしていきましたが、家族の想いは1つの方向に向かわないまま徐々に患者の状態は低下していきました。夫は治癒すると信じているために、なかなか現状を受け入れられず困惑していました。しかし、家族の説得もあり、夫は徐々に患者の死を受け入れ始めていました。結局、患者は病院で最期を迎えられました。

夫は治癒させたい、娘は最期を充実させたいという想いがある。どちらも患者を想う行動であり、医療者は否定してはいけない状況でした。今回この事例を通して、患者自身だけではなく周りで支えている家族がどのように想い、どのような治療を望んでいるのかということ踏まえながら、患者・家族看護を行っていく重要性を考えさせられました。どのように看護をしていけばよかったのか今は答えが見つかりませんが、日々の看護をしていく中で、今後の私の課題としていきたいと思っています。

マイブーム

回復リハビリ病棟 中原 麻紀



最近のマイブームは観葉植物を育てる事です。冬は寒くて布団から出るのも嫌になりますが、最近は少し早めに起きて、水をあげます。朝からたっぷりと水を与え、昼間にたくさんの日光を浴びた植物は、最初は小さくても少しずつ伸びたり、葉っぱが増えていく成長の様子を見ていると、とても癒されます。

アイビー、ポトス、サボテン、グリーンネックレスとトイレや部屋のあちこちに飾り癒されています。今の植物を大事に育てながら、他の種類にも挑戦していけたらな～と思っています。



今年も専門研修「緩和ケア」「HCUコース」の研修を継続、また中堅看護師を対象とした「人材育成プログラム研修」に、コアメンバー以外の方々も参加ができます。興味のある方、臨床に役立てたい方、将来の方向性を考えたい方など振るってご参加ください。研修前に参加募集をします。

HCUコース：第1回目6月13日、

【フィジカルアセスメント（上級編）】

緩和ケアコース：第1回目7月19日、

【症状緩和・疼痛「がん性疼痛・薬物療法」】

人材育成プログラム：第1回目6月21日

「医療人のやりがい作りコーチングコミュニケーション」

※以後のスケジュールについては、教育年間計画一覧表をご確認ください。

編集後記

桜の季節もあっという間に過ぎ、青葉が茂る季節が来たと思ったら、ゴールデンウィークの日本列島は南の真夏日と北の真冬日が同時に来て、同じ日本とは思えないような記録的気温の変化がおきました。季節の変わり目は何かと体調を崩しやすいものです。そして7月の病院機能評価に向け、病院中が慌ただしくなっています。イライラやストレスが蓄積してきている人もいるかもしれません。みんながお互いを必要とし協力し合わなければ乗り切れないと思います。今から体調管理を十分にを行い病院機能評価を迎え撃ちましょう。（小牧）

